

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	現代企業法論
科目基礎情報					
科目番号	7003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電気情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しないが、会社法の基本書（授業中に紹介する）を各自購入することが望ましい。/六法、会社判例百選				
担当教員	松田 忠大				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	会社の営利性、社団性、法人性を踏まえて、それぞれの性質から生じる諸法律問題について自分で答えを出すことができる。		会社の営利性、社団性、法人性の意義が理解できるとともに、会社の権利能力の範囲、法人性の限界について説明することができる。		会社の営利性、社団性、法人性といった基本的な性質を理解できていない。
評価項目2	株式会社の設立手続の概要を説明でき、かつ、設立手続から生じる法的問題について、自分で考え答えを導くことができる。		株式会社の設立手続をおおむね説明でき、かつ、これに関連する法的問題を説明することができる。		株式会社の設立手続の概要を十分に説明することができない。
評価項目3	株式の意義、法的性質を理解したうえで、有限責任原則との関係で株式が果たす役割、株式を巡る法的問題を1以上採り上げて、これを自ら考え、その答えを導くことができる。		株式の意義・法的性質を理解し、株主有限責任原則、株式の果たす役割を説明することができる。		株式会社における株式の意義を理解できていない。
評価項目4	株式会社の基本的な機関である株主総会、取締役（会）、監査役について、それぞれの法的位置づけを理解したうえで、機関に関する法的課題を1つ以上採り上げてこれを自ら考え、その答えを導くことができる。		株式会社の基本的な機関である株主総会、取締役（会）、監査役の意義およびその果たす機能を説明することができる。		株式会社の基本的な機関である株主総会、取締役（会）、監査役の意義が理解できていない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達目標 4-1 JABEE (2012) 基準 1(2)(a) 教育プログラムの科目分類 (1)①					
教育方法等					
概要	資本主義社会の高度化に伴い、私たちの生活を企業活動と切り離して考えることは困難になった。わたしたちは自らの生活に必要な物資を企業から調達し、その生活物資を購入するのに必要な財貨を企業から得る。前者においては消費者と企業、後者の関係においては、労働者と企業として関わることになる。また、企業間においても、取引先、下請け、親子会社などのように相互に連結した関係が形成されている。さらに、将来、自ら会社を起こし、企業経営を行う人もいるかもしれない。このように考えると、現代社会における企業は重大な存在意義を有していることがわかる。この講義では、この企業社会において、企業生活関係に特有な法規の総体である商法、とりわけ会社法を学習することにより、企業社会で生きるための知識を身に付けることを主な目標とする。				
授業の進め方・方法	この授業は講義を中心として行うが、必要に応じて、演習問題やレポートを課す。レポート課題については、期限内に必ず提出すること。				
注意点	教科書は特に指定しないが、価格の安いものでよいので会社法のテキスト（出版社のシリーズもの、例えば、有斐閣双書など）を一冊は購入することが望ましい。 なお、本科目は、週ごとの1コマ90分の授業につき、200分の自学自習が必要である（30単位時間の講義+60単位時間の自学自習で2単位。1単位時間は50分）。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	1. 企業活動と法	<input type="checkbox"/> 近代市民法の枠組みを理解することができる。 <input type="checkbox"/> 企業概念を理解することができる。	
		2週	2. 会社の概念と種類	<input type="checkbox"/> 会社の概念を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 会社の種類とそれぞれの特質を理解することができる。	
		3週	3. 会社の法人性	<input type="checkbox"/> 会社の法人性の意義を踏まえ、法人としての会社の活動の特質を理解することができる。	
		4週	4. 会社の能力	<input type="checkbox"/> 法人としての会社が有する能力を理解することができる。	
		5週	5. 株式会社の設立 (1)	<input type="checkbox"/> 会社設立の意義、定款の意義、定款への記載事項を理解することができる。	
		6週	6. 株式会社の設立 (2)	<input type="checkbox"/> 出資の履行等、株式会社の設立手続の概要を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 株式会社設立に際しての法律問題を通して、発起人の権限、責任を理解することができる。	
		7週	7. 株式の意義と種類	<input type="checkbox"/> 株式会社における資金調達の手法である株式制度の概要を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 特別な内容の株式、種類株式の概要を理解し、それぞれの違いを説明することができる。	
		8週	8. 株主の権利	<input type="checkbox"/> 株主の権利および義務、株主平等原則の意義・機能を理解することができる。	

4thQ	9週	9. 株式の流通と株主の会社に対する権利行使	<input type="checkbox"/> 株式自由譲渡原則とその例外を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 株主の権利行使の仕組みを理解することができる。
	10週	10. 株式による資金調達	<input type="checkbox"/> 株式による資金調達の仕組みを理解することができる。 <input type="checkbox"/> 募集株式・新株予約権の発行手続きの概要を理解することができる。
	11週	11. 株式会社の機関総説	<input type="checkbox"/> 株式会社の機関の意義を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 典型的な株式会社の機関設計を理解することができる。
	12週	12. 株主総会	<input type="checkbox"/> 株主総会の意義を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 株主総会の招集手続、決議方法を理解することができる。
	13週	13. 取締役・取締役会・代表取締役	<input type="checkbox"/> 業務執行機関としての取締役、取締役会、代表取締役の意義・機能を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 取締役の負う法的責任を理解することができる。
	14週	14. 監査役（監査役会）、会計監査人、監査等委員会設置会社および指名委員会等設置会社	<input type="checkbox"/> 監査役・監査役会の意義・機能を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 会計監査人の意義・機能を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社の概要を理解することができる。
	15週	試験	
	16週	試験答案の返却・解説	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	4	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	4	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0